

第5回原子力小委員会意見書

2014年8月21日
伴英幸

1. 動画公開の件、検討よろしくお願ひします。
2. 委員会は委員が十分に意見を述べ合う場であつて、専門委員やアドバイザー委員との質疑応答の場ではないのですから、議事運営に工夫をお願いします。
3. 第5検察審査会の議決（東電3役員、起訴相当）にみられるように、取るべき対応を怠った結果として原子力事業を傾けさせたのですから、これを救うために国がこれ以上の支援策を講じる必要はないと考えます。
4. 資料4-15 ページにある旧態依然とした必要論には、福島原発事故を経験した反省が見られません。本小委員会第2回会合で黒川清氏が指摘した独善的なマインドセットのまま。
 - ・福島原発事故を経験し、そこで起きた事態を見れば、原子力を活用することに「国民全体にとってメリットがある」どころか、国民全体はデメリットの方が大きいと考えています。世論調査で明らかなように国民全体は原子力からの撤退を希求しているのです。
 - ・再処理・プルサーマルも同様に核燃料サイクルから撤退することで、事故リスクをゼロにし、また、コスト削減につなげ、ひいては電気料金の低減につなげるべきです。
 - ・「国民全体が享受するもの」は今やなく、実態は真逆で痛苦を共有しています。福島事故により多くの市民が犠牲になり、精神的・肉体的かつ物質的に多大な負担を強いられています。
 - ・そしてこれからも「あり得ないと思うこと（過酷事故）も起こる」（国会事故調査委員会最終報告委員長所感、なお下線部分は筆者補足）。

資料) 各モデルのサイクルコスト

項目	割引率 0%		
	再処理	直接処分	現状
ウラン燃料	0.62	0.72	0.62
MOX 燃料	0.17	-	0.17
(フロントエンド計)	0.79	0.72	0.79
再処理等	1.10	-	1.10
中間貯蔵		0.14	0.07
VHLW 処分	0.24	-	0.24
直接処分	-	0.41~0.48	-
(バックエンド計)	1.34	0.56~0.63	1.41
計	2.14	1.28~1.35	2.21

*原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会資料集1「核燃料サイクルコストの試算」より（原子力委員会事務局編 2011年11月10日）